

市議会3月定例会

62年度当初予算、下水道事業、農業集落排水事業など決まる

市議会三月定例会が三月二日から十九日までの十八日間にわたって開かれました。今定例会には、「六十二年度の当初予算案」や、「国民健康保険条例の一部改正案」、「工場設置促進条例の一部改正案」、「下水道事業特別会計案」、「老人福祉センター条例」など五十一議案を提出。慎重な審議が行われた結果、いずれも原案どおり可決されました。このほか十二月定例会に提出された閉会中に審査されていた「六十年代各会計決算案」の承認や「小さな親切」実践都市宣言をして閉会されました。



▲議案の提案理由を説明する島山市長

62年度一般会計予算は

二百八十億一千万円

一般会計、特別会計、企業会計の六十一年度補正予算および六十二年度の当初予算が可決されました。

61年度の

一般会計補正予算

一般会計の歳入、歳出にそれぞれ二億九千七百二十六万一千円を追加して、六十一年度の最終予算総額は百五十四億八百九十三万四千円となりました。

企業進出条件を緩和

工場設置促進条例を一部改正

企業誘致を積極的に進めるため「工場設置促進条例」を一部改正しました。

これは、最近の円高などにより製造業の工場を立地する企業が少なくなってきたるために、企業が当市に進出しやすいように条件を緩和したものです。

改正した内容は、工場の範囲を拡大したこと(情報処理サービス業や産業廃棄物処理業なども)、操業時の従業員数を「十一人以上」であったものを「五人以上」にしたこと、工場の建物や機械などの

歳入の主なものでは、地方交付税が一番多く二億八千万円で、次いで財産収入、市債の順となっています。

歳出で主なもの、財政調整基金への積立金二億九千五百万円、市立総合病院への負担金一億五千九百万円、公営企業への助成費一千八百万円などで、このほかは年度末で不用となった予算を減額しました。

62年度各会計

当初予算

六十二年度は、四月に市長、市議会議員選挙が執行されるため、一般、特別、企業各会計とも骨格予算編成をし、総額で二百八十億一千二百八十九万三千円となり、前年度に比べ一七・八%の伸びとなりました。

なお、六十二年予算内容については六、七面でお伝えします。

固定資産の総額を「千八百万円」から「千九百万円」にしたことなどです。

心身障害者に職業訓練と生活指導「白沢ミニ通所センター」を設置することになりました。

心身障害者に職業訓練と生活指導「白沢ミニ通所センター」

このセンターは、白沢地区にある精神障害者の授産施設「白沢通園センター」隣りに設置するもので、心身障害者に必要な技能習得訓練と生活指導を行います。

心身障害者の授産施設「白沢ミニ通所センター」を設置することになりました。

行政報告

市議会三月定例会が招集された三月二日、島山市長が行政報告をしました。その中から主なものをお伝えします。

花岡地区への企業誘致

特定地域中小企業対策臨時措置法による地域指定を受け、県や商工会議所などとともに金融制度の利用、雇用促進などを進め、特に企業誘致は最重要対策として取り組んできました。花岡工業団地の農村地域工業導入促進法の指定は三月上旬に受け、早く作業を進めています(三月十一日指定)。花岡地区への企業誘致は、同和鋳業からレア・アース事業計画と同和クリンテックス株式会社の設立が相次いで発表されました。進出企業が一日も早く工事着手できるように全力を傾注しています。

放射線障害防止協定の締結について

五十九年九月、誘致企業である日本医工株式会社から市に対し、コバルト60によるガンマ線滅菌施設を導入したいとの協力要請がありました。市では、この要請を受けて関係する二井田地区住民に説明会や学習会を開くなど、放射線に対する知識の啓発普及に努力してきました。また地域においても二井田地区公害対策協議会が結成され、この会を中心に地域住民の意見集約がされました。昨年十二月二十六日公害対策協議会、市及び日本医工の三者で「放射線障害防止に関する協定」を締結し